



15

昔は気象関係の書物は高価で買えなかったので、筆者が仙台市への単身赴任当時（35〜42歳）は専門誌を中心にせよと資料収集に励み、ラジコやテレビで取り上げた話題も文書にまとめるなどして、その数は数千枚にもなった。アップルウェザーを設立した時は、これらの資料や原稿がその後の業務に欠かせない宝物となった。

しかし、今はインターネットで必要な調べ物がすぐ手に入る時代となり、百冊を超えたファイルを整理・処分することにした。

そしたら出てきたのが「気象予報士への道」と書かれた分厚いバインダーが3冊。

今月のお題
予報士への道

都道府県別の気象予報士合格者数

多い都道府県	合格者数
東京都	1,801
神奈川県	1,100
千葉県	825
埼玉県	661
大阪府	570
北海道	547

東北6県の比較

青森県	143
岩手県	62
宮城県	274
秋田県	43
山形県	42
福島県	71
全国合計	10,108

(資料提供：一般財団法人気象業務支援センター試験部)

受験者数と合格者数

回目	受験者	合格者	合格率 (%)
1	2,777	500	18.0
2	2,705	313	11.6
3	2,771	277	10.0
4	3,257	336	10.3
5	2,461	204	8.3
41	3,391	134	4.0
42	3,275	161	4.9
43	3,116	130	4.2
44	3,153	125	4.0
45	2,902	130	4.5
46	3,089	127	4.1
47	2,795	138	4.9
合計	181,640	10,108	5.6

強い意志で挑戦を

会社創業と同時に開始したのが「気象予報士への道」という名前の、気象予報士を目指す人のための塾だった。初めのころは女性アナウンサーが中心で、門下生は2年で20人を超えた。自宅車庫2階の会社事務室に、土曜日夕方になると十和田市や弘前市、深浦町など遠くからも予報士を目指す者が集まってきた。開塾2年目に県庁職員など3人の気象予報士が誕生したのを機に、青森県気象予報士会をつくり、塾は予報士会が引き継いで間もなく20年になろうとしている。

気象予報士の試験は年2回、8月と1月に行われ、2カ月後に合格発表がある。本年度1回目・通算48回目の試験は、昨日（6月19日）に受験申請が始まった。8月27日が試験日で、10月6日に合格が発表される。

試験制度ができた最初の頃は、予報のプロの受験者が多かったため合格率は二桁台だったが、一般の人が多く受験するようになってからは別表のように合格率は4%台という超狭き門になっている。試験を突破するには、学科試験2科目と実技試験に合格するだけで良く、国家試験としては珍しく、経験や年齢などの制限がない。従って受験者は小学4年生くらいから80歳代まで幅広く、10回どころか20回以上も受験し続けている人もいる。

現在では試験用の参考書や過去問集などが数多く出版され、また、試験の合格基準が定。

首都圏では気象予報士の求人があると、百倍以上の求職者が殺到するようので、予報業務への人気は健在である。しかし地方では、予報士の高齢化に伴って次代を担う人材が不足しているように思われる。天気に興味を持っている学生や、気象予報の仕事をしたい方は、ぜひ強い意志でチャレンジしてほしいと願う。希望者には応援したいと思う。

（工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住）

※次回は7月18日に掲載予定。